代表インタビュー

代表インタビュー1

30周年を迎えたコミケット。
その歴史はもちろん平坦なものではなく……。
ここでは、コミックマーケット準備会の若手スタッフを聞き手として、
コミケット30年の歴史を米沢代表にインタビューしてみた。

参加者：米沢代表、ベル（代表補佐）、インタビュアー：準備会スタッフ

――コミケットも最初の頃は準備会だったり準備委員会だったりしますよね。

米沢　一応そういう風に名乗ってたけど、当初の主催は迷宮なわけ。迷宮の第一期である75年から77年にかけて、実質的には迷宮がコミケットを準備し、開いていた。その本体と言えば3人。亜庭じゅん氏が「漫画新批評体系」の編集長で、コミケットの代表が原田氏で、学生だったぼくがどちらもフォローするという形。それに、文字書きとか、事務手伝いとか、いろいろ手伝ってくれる人が、5人から10人くらいいたのかな。だから「漫画新批評体系」第１期最後の「迷宮75→77全活動」にはコミックマーケットの開催が活動報告として掲載されている。赤字になれば迷宮から借りてたし、本の方には「マニア運動体論」を始め、同人誌運動に関する評論やレポートにかなりのページを割いていた。第２期には、評論誌の部数拡大、一般化とコミケットの組織作りの方向で動いていくんだけど、準備会が現在の原形を持つのは、ぼくが代表になってからですね。

――75年にコミケットが始まって最初のブームは少女マンガで、劇場版の「ヤマト」が公開される77年頃になるとアニメ系の同人誌が急増しました。一方、商業誌の状況も変わってきましたが？

米沢　OUT、マンガ少年、LaLaなどが出てきた。そういうものが出てきてしまうと、同人誌はそっちを目指すようになっちゃうんだよね。で、77年から79年にかけて、同人誌で描いてた女の子たちがあらかたLaLaとかでデビューしていっちゃうとか、創作同人誌系の人たちってのがマンガ少年とか、マンガ奇想天外とかPekeとかでデビューしていく。高野文子とか、高橋葉介、紫門ふみ、さべあのま……そういった意味では、作家が商業誌につれていかれちゃって、第1期の描き手たちと同人誌が弱くなってっちゃった。

あとアニメブームだった頃は、設定資料なんかを、本に入れることによって読者が喜んだんですよ。パロディじゃなくて、ヤマトの設定資料とか、その内部図解とか、あるいはセルとか。そういうのが人気があったわけなんだけど、それが77年か78年かな、ちょうどヤマトの映画があった時期。ところが、そういうものも全部アニメ雑誌が載せるようになって、専門誌だから立派だしカラーだし安いしちゃんとしてるわけで、あっという間にアニメの設定資料とか情報載せたやつってのはそっち側にシフトしちゃう。そうするとできるのはパロディーしかない、と言っちゃなんだけども、弱い出版社だとそうなっちゃうとこありましたよね。

そのころコミケットていうのはアニメ関係で男の子がちょこっと増えて、ヤマトのパロディーとかでてきてはいたんだけども、同人誌だけの楽しみみたいのが少しずつ来てたのかな。同人誌を目当てにする読者が増えて、来た人間たちの中でサークルを作る動きもでてくるみたいな形で、大田区産業会館（コミケット5）に移ってからもう少し増えていく。だからそのアニメブームを受けて、コミケでもアニメ発見伝という形で、アマチュアアニメの上映会をやったりした。この頃アニメ、少女マンガ系、評論サークルとだいぶバラエティーに富んできてて、サークルも増えていったっていう感じですよね。

コミケット6では1回目の合宿を浅草の木馬館で行いました。簡単に言うと、コミケットの1日だけじゃ足りないと、そういう人たちがいたわけです。まだ語り足りないと。で、反省会はじめてもまだ語り足りない人たちがいる。まあどうしようかというんで、じゃ合宿して1晩騒いでからコミケやろうかと。終わったあとじゃなくて前日に。土曜日に原画展、この時には「あず」と「スクランブル残党」と「落書館」の3つの原画展をやって、上映会とかもやって、もちろんお昼からやって、来てくれた人はそのまま合宿に流れ込む。この頃、ホテルに泊まるとか、みんなほんとそういう金がないわけですよ。

――当時の反省会の状況って、最近の反省会と当然違うわけですよね？

米沢　簡単に言うとまず報告を行って、質問。で、そのあと意見交換があって、40人か50人くらいで。全部片づけが終わったあとにやるわけで。地方サークルなんかも残ってて。

――内容は当然コミケットの運営に関してとか？

米沢　いや、そういうのはない。マンガとは！というか、つまり同人誌のマンガがどうあるべきかとか、こういう売る一方の商業誌でいいのかとか。袋入りの同人誌で高い値段つけて売ってたみたいな、原野商法の走りみたいなサークルもあったんだけど（笑）。高いって言っても当時1000円なんだけど、アニメの設定資料なんかが1枚か2枚入ってるのよ。ぼったくりだよね。こういうのを許していいのかとかいうのから始まって、そういう感じで毎回、マンガ、同人誌、理想について語るって感じで。でも、運営とかそういう具体的な話は一切ない。

ベル　やっぱりマンガの話したいわけよ、同人誌の話がさ。でもホテル代とかないから、浅草の木馬館という演芸場が安く借りれるから、ここを借りて。ステージの上とかに毛布を敷けば寝られるなって。毛布を1枚300円で少し借りて。まあ一緒に寝ればいいやという感じで何人くらいだったかなぁ……60人？　夜だからとりあえずステージはないけど、壇上に集まって。

――40人だと聞いていますが。

米沢　40～50人くらいかな？　ただね、もぐりもいるから。金はらってない。楽しいから徹夜しているわけで、やらなくちゃいけないからそのまま起きてるわけで。その6回目に関しては合宿のことばかりで、翌日のコミケ当日のことはよく覚えてないんだ。

一同　（笑）

米沢　太田区産業会館はまず前期としてC5～C8までの4回使用してるんだけれども、そのあたりからこの会場でも足りなくなってくる。大田区産業会館は1フロアに100スペースちょっとしか入んないの。上下使って200。この頃のサークル数が130～150で。でこれは入らなくなるという話が出始めたんですよ。会場いっぱいにサークルはぎりぎり入っても、一般が入りきらない。この頃からいろんな人たちが、アニメ作ったり、コスプレとかも増えてきたりとかパフォーマンスやったりとかいろんな趣向が始まってきて、大田区の時には朝、開場前に200人くらい列ができた。

ベル　こちらが行く前に列ができちゃって、そりゃ会場から言われるよねぇ。なんで誰も整理する人間がいないんだ！　って。

米沢　会場に列ができるような催し物ってこういう産業会館では普通やらないから。この頃から急に増え始めたんだよね。で、マンガとアニメをこの辺で分離しようかとマンガの場所とアニメの場所、でその他をどうするか考えて、緩衝地帯にその他いれちゃえーとかいって、真ん中にわけるみたいな形で。そのときはマンガ、アニメ、その他の３つだけ。それで大田区以外にも会場があるかって探して四ツ谷公会堂でコミケット９を行った。この会場を選んだのは新宿、渋谷近辺にあるってのがひとつ。あと、会場費が安い。

ベル　ここは抽選なんです。前日に徹夜して並ぶんですよ。それで前日の最終近い電車で行って……。

米沢　この会場も取るのが大変だっていうのがあって、結局大田区に戻るんだけれども、コミケット９の前にも四ツ谷公会堂でスペシャルをやったのね。コミケットの赤字が増えてきて、迷宮関係の売り上げで補填してたんだけれども、ここでなんか１発やらないと、会場費が出ないという。参加費だけではなかなか厳しいから、なんかやろうということだったんだけど、参加費を300円に設定したのが失敗。

若手スタッフ　赤字補填の企画のはずが……。

一同　（笑）
米沢　参加者は200～300人くらいきたんだよね？ 実験アニメの上映やろうとか、石子順呼んできてみんなでいびろうとか、少女演劇の揃いぶみをやろうとか。即売会抜きでアニメとか演劇とかそういうファン関係の企画だけ集めてやったイベントだったんだけども、最終的に10万円くらいの赤字になった。うちらこういう金儲けとか考えちゃいけないと、さらに新たに考え直した上でやったんだけども。78年にはこのスペシャルの他にも、秋に一橋大学の学園祭でお出かけコミケみたいなのをやったり色々あった。これは、ドガっていう名古屋のグループがあって、そこが名古屋でコミックーカーニバルという即売会を開くというので、コミケットに丁稚奉公にきたわけですよ。そのスタッフが一橋の大学祭でもやりませんかっていうんで、じゃあっていってやったんだけれども、20～30くらい来たのかなぁ。座席のある普通の教室を使ったんで、いまいちうまくいかなくて。サークル参加費もほとんど無料に近い形で。会場費ただだから。

さっきも言ったように、78年にはコミカが始まってたんですよ。今はミステリー作家の森博嗣とか、奥さんのささきすばるとか。あと堀田くん……ヒカルの碁の原作者の旦那とか。あの頃はミニコミフェア、マンガ市、大阪のコミールなど、いろんな同人誌イベントが立ち上がり動き始めた時期ですね。

さっき話した四ツ谷公会堂ですが、これも混んでたんで、会場取りの問題もあって、また大田区に戻ったって事実があるんですね。ただこの大田区が結局ダメだったのは結局上下あわせても200ちょっとしか入らない。やっぱりサークルを断らざるをえなくなったんですよね。この頃はもう場所がないから、当日来たサークルの受け入れに関しては、立って売ってくださいと。手に本をかかえてこうやって……いわゆる立ち売りですね。
若手スタッフ　え、そうだったんですか！？　１サークルくらいのスペースで立って売るんですか？
米沢　いやあの、スペースがないから、歩いて。買ってもらえませんか～て。サークルや一般に向けて売ったり、こんなのがあるよ～って感じで。本持って当日直接やってきた人間にさ、帰れと言うのが正しいんだけれども、帰れと言えないからさ。まあ場所がある限りは。
――池の上の私書箱宛になるのはいつからでしたっけ？
米沢　7から……。コミケット6までは原田氏のところでやって、7回から。77年冬から池の上。
――そうするとそれ以降の対外的な文章っていうのは基本的に米沢代表が書いてるのですか？
米沢　だと思います。
――コミケット6のレポートの原田代表の挨拶で、なんか疲れたという言葉が非常に目に付いて。
米沢　毎回疲れてるんですよ、毎回混んでるんですよ。今よりせまい会場でも今の混み具合だった。7回か8回のあたり、コミケット7かな。ここでさっき言ったようにアニメ系がばーっと増えちゃう。サークルの場所もくじびき、サークルには一応このときだけ、ネームカードにサークル名を入れたやつ用意しておいてもらって、来たサークルに貼ってもらってた。これが100スペースを越えたあたりから抽選が大変になって50音順に並べるのも大変になっちゃって。それまでは机に座って2人で対応する程度で十分だったんですよね。受付は女の子たちに頼んで。当時はカタログも出してないし、準備会としては売るものもないわけだから。
ベル　大抵当日になってから常連サークルの女の子に手伝ってもらったりとか。
米沢　そう、人が余ってるところで。この頃は準備会構成サークルってのがあってコミケットがなくちゃ困るというサークルには人間出せという話でやってて。サークル会議で来てくれたところもありましたよね。要するにいる人間、手近な人間に声をかけて使うってのが基本だったから。当時は事務作業も1人か2人で十分だったから迷宮の人とかと一緒にやる程度？　一応準備会とは名乗ってあるけど準備会でもなんでもないわけで。
ベル　大体誰かの家でやってたよね

米沢　そんな感じですね。それが、四ツ谷が使えなくなって一度大田区に戻ったんだけど、その後、東京都立産業会館（現在の産業貿易センター台東館）てのを探してきた。これがＣ12.広い会場で、370サークルまで入れることが可能だし、これでしばらくコミケットも大丈夫だろうと。机を置いてもまだ空いてる空間がある(笑)。これで大丈夫だという話になったらその日に小火がでちゃった。ボヤというか、ごみ箱に誰かが煙草のすいがらを捨てちゃったみたいで、すごい怒られて。計画書も防災なんとかも今までの会場では一切出さなくてよかったのが、この会場では出さなきゃいけなくて、めんどくさいねーという話になったわけ。こんな手続きして役人のところにいくのは嫌だという。
ベル　その前にもね、私はたーっぷり怒られたんですけど。ぎりぎりまでお金振込みいってなかったからかなぁ？　今までは手続きとか意外と簡単で直前でも良かったんだけど。コミケ当日はなぜか私が電話を受けてさんざんいじめられてさんざん言われたの。
米沢　私は言われてないんだけどね。かわりに誰かが言われてるらしい(笑)。
――当時の記録を見ると、1時間に1回は会場から文句が入ってます(笑)。
米沢　そうそうそう。人が多いとか。列が出来てるとか。
ベル　今でこそおとなしいといわれてますけどね、やっぱりうるさかったと思いますよ。
米沢　きゃーきゃーきゃーきゃーと。女の子が騒ぐ。で男の子がわいわいわいわいと騒ぐ。会場側に言わせれば妙な格好の人間がいる。コスプレもまだ一般化してない時代だから。
米沢　そうすると一体なんだって話になるわけで、会場のおじさんが見回りに来たわけよ。そういうのもあって、大田区での大騒ぎと産業会館での文句たれられんので、前の代表が疲れたというのがちょうどその年……。
――最初に作ったコミケットマニュアルで、20回のあゆみというがあって。今の申込書に載ってる年表の原型なんですが、それをみると79年7月の浅草都立産会館台東館(コミケット12)、この回を持って原田氏が引退ということになってますね。
ベル　それでなんとなくその時に話をしたんだよ。最後の反省会の時にみんなにやめるって話をしたんだよね。この時は浅草花火もぶつかったんだ。
――で、また大田区に戻ってコミケット13。
米沢　この回はガンダムですごいブームがあって……。当日も満員御礼で、アニメセル売られたりとか、アニメ系サークルがトラブル起こして、机が曲がったりとか。それで、もっと広い会場を探さないとってことになったんですね。
ベル　私が他にもっとあるんじゃないかって、いっぱい電話かけて、そしたら川崎産業会館ってのもあったんですよ。産業会館だったらそういうのできるかもって問い合わせたら、そしたら今うちはできないけど、近所に新しい会場ができるというのでそこの電話番号を聞いたんですよ。出かけて話聞いてみたら、この日は開いてますみたいな。じゃあすぐそこに行くぜゴーみたいな感じで、いきなり米やんとか引きずり込んで、明石さん(コミケットのベテランスタッフ)ゴーとかいって。
米沢　軽自動車に5人。
若手スタッフ　場所的には近かったんですか？
米沢　いや近くないよ！ はっきりいって東京じゃないわけですよ。都内じゃないという事でうーんと考えてたんだけど、会場ができたばかりで、ちょっと今までと違うものができるかもしれないというんで、まそれもいいかと。広いし、おまけに合宿できる場所もくっついていた。
ベル　集会室もついてるし、お風呂もプールもついてるし、宿泊施設がついてるんです。
米沢　公園みたいで。段になってて噴水があって……。
ベル　噴水はないよ。
米沢　噴水はないけど植え込みがあったりとか。
ベル　舞台まであったのね。ここだったらいろんな

ことができるよねってことで。舞台もできる、原画展もできる、そういうものもできるよねって。会場の形に合わせて細いスペースに机置いたりとか、入口の所の軒下に机3本並べたりとかね。そのときに軒下サークルってのが生まれて。まあ置けるところには全部机置いちゃえって。

――この頃からブロック長って形になります？

米沢　実際に人並べとか手伝ってくれてた若い子たちから、そういう話が出きたわけね。でも、元々警備とか組織とか嫌いな人たちが多いから。とりあえず準備会という名前にしようと。いっぺんスタッフは登録しなおしてもらって、形を整えようという話になったわけよ。受付警備という名前だったけど、ここまではっきりしてない。まあ警備というか人並べというかそういう対応をとる人間たちと、受付で座ってる女の子たちで何人か、あとプラスアルファに頼んで。男の子たちと古いメンバー中心にサークル対応して、じゃあ若い子たちにここで列整理とかやってもらおうという話で、22人から25人くらいかな。

ベル　大田区のあたりから会場側から文句を言われないように整理しなきゃいけないって。

米沢　アニメのブースがすごい混むでしょ。そうするとせまいところに閉じ込めたりしちゃだめだとか。市民プラザだと2階にアニメサークルがあったんだけど、その2階の階段にあがるので大混乱。アニメに加えてロリコンブームが来ると、今度はあの外に列並べないととか……。当時300～400人、300人くらい列ができたのかな？　それで大変なんですよ。市民プラザではそうやって準備会の形の元ができていったけど、セクションはブロック長と警備と受付販売の3つだけ。

――あと15のあたりから申込書に満了になったらお断りしますよと記載がありますね。

米沢　15かなぁ。市民プラザですでに何十かはいらなかった。

――この頃からすでにサークルの配置は準備会に一任されていました？

米沢　準備会っていうのじゃないんだけど、事前作業を池の上青少年会館でやりはじめた頃だから、4～5人から多くて10人くらいかな。みんなで1日あけて、集まったその場で大体割り振りしてた。

――これまでのようにサークル集会で決めるというのは？

米沢　サークル集会は3回目までカトレアで、そのあとは新橋区民会館でやってたんですよ。

ベル　サークル集会ってのは、参加サークルにみんな来てもらって、色んな問題について話したり、配置決めたり。当時はその集会の話し合いの中で決めてた。説明会とかもやってたていう感じですね。新橋区民会館でのサークル集会はね、市民プラザの最後くらいまでやってる。

米沢　市民プラザってのはどっちかっていうと公園っぽいところ。山の上にあるんですよ。で、その山の下にずーっと階段があるところにずらーっと人が並ぶ。外側に公園があるから、ミリタリー系の連中がサバイバルゲームをやってたり。ガンダムのコスプレの連中が花いちもんめやりはじめたりとか。

ベル　プールもあるから子供達の水泳シーンを喜んでみてたり。みんながそれぞれ楽しんでたみたいな。

米沢　77年から80年にかけて、ファン雑誌の類がいっぱいでてきたわけですよ。準備会関係とか迷宮関係者の作った雑誌がPekeであったり、アゲインであったりJUNEであったりするし、サークルミラージュの連中が作ったのがファンロードであったり、この辺の連中がOUTで書いてたり、作家達もデビューしてしてったり、編集になる人間も増えていくみたいな動きがありましたね。そういうファンがものを創り始めたり雑誌作り始めたりする時期と重なってたし、コンバットマガジンとかの専門的な雑誌も出はじめて、サブカル的な動きがでてくるのが80年だから、市民プラザの時代はそうした意味では80年代のスタートでしたね。

《P94へ続く》

**様々な問題に対応するため、
組織として一応の原型を作り始めた準備会。
だが、折からのアニメブームにのり、拡大して行くコミケットには
依然問題も多く――。**

米沢　準備会の形が一応できて、準備会スタッフが集まれる部屋を共同で借りようという話になったのが80年かな。4畳半とか6畳半とかの安い物件があるでしょ。それをみんなで千円ずつだしあって、物を置こうとかいって。それまで家にあった見本誌をそこに運んだんだけども。

若手スタッフ　見本誌って最初から回収されてたんですか？

米沢　1回目から。どうしても提出してくれないところからは当日買ったりとか、他の即売会に行って買ってきたりとか、同人誌を一応全部集めようというコトでやったから、最初の頃の見本誌とかはコミケットに参加してない見本誌とかが混じってる。個人で買ったやつも入れたり。

ベル　その部屋は渋谷の桜ヶ丘にあったんですよ、古いアパートの２階で……。

米沢　暇な学生が毎日そこにいる。たまってる人間でコミケットの問題とか話すと、こうだ、こうでなくちゃいけない、こうしようとか意見が出てきて。1週間もたつと話が決まったりする。あっというまにもりあがって、またばらばらになっていく。それまで3～4人くらいでやってたから何の問題もなかったけど。集団指導体制に変えて、こっちも少し責任放棄しようと思ったんだけど。

ベル　いつもうまくいかない。

米沢　遠い人とか時々来てやってくれる人って特にいなくて、ひまな人間は毎日やってきた。

ベル　米やんはこの部屋嫌いだったんだっけ。

米沢　ドアに十字架が貼ってあって、中に心霊写真があったのね。いや、前の人が迷信ぶかい人でね。なんかヘンだなと思って、行くと体の調子が悪くなるから、なるべく行かなかったんだけども。

ベル　そのアパートあなたが見つけたんだけど。

米沢　そうそうそう、安かった。渋谷から5分のわりにすごく安かった。

ベル　なんかね、部屋の気がおかしかったよね。

米沢　で、横にあるドア開けると下が何もない。2軒あった建物を1軒にしたみたいで、ドアが変なとこにあって。最初はこう色々持ち込んだりしてたんだけどね。

――コミケットの14のときに初めてコミケットアピールっていうのがでますよね。

米沢　そうだと思います。ここでコミケット年鑑を発行して活動関係はそっちにまとめて、アピールをつけて申込書を別につけるという形にした。システムはこっちが決めてやればいいのか、ていう形に。だからアピールは簡単な報告と、準備会からのメッセージと当日の義務と心得で１ページかな？　リストとかサークル関係のやつは年鑑でやって、申込書を1枚べらってつけるという形でやっていこうと。

当時はサークルの当日の対応をブロック長がやっていたんだけども、ブロック長のところでまたそのベテランブロック長とか新人ブロック長とか受販とかあってね。

若手スタッフ　へ～。その当時からベテランと新人を分けてたんですか？

米沢　経験があって色々と答えられる人と初めての人がいるじゃん。だから2回以上やっている人はとりあえず、聞けば大体わかるかなみたいな目印として黒バッジを、新人は黄バッジを付けてたんだけど、そしたらその黒バッジと黄バッジの間にヒエラルキーができてる。せいぜいこっちは新人以外が黒という意味合いだったんだけれども、俺も黒バッジになりたいという若い子が出てくるわけで。早いんだよね、こういうのはね。

ベル　なんでだろうね。でも体質もあったんじゃないの～？

米沢　老人と若者、昔から創作漫研とかやってきたぐらいの人達と、その後アニメ系から入ってきた世代の１0代だよね。その間にやっぱり意識の違いがあるわけで、まあそのへんが出始めたのがこの頃だよね。

この川崎市民プラザの頃から合宿もあって、公園的なとこでやって、コスプレもあって、ゲームもあって、しかもサークルのジャンルはばらけてて、アニメ系では合体同盟とかアニパロのホモ系のやつが結構人気が出はじめて、あとは、少女マンガの中でもコアな、ジュネっぽい少女マンガが人気があって、そこにロリコンがシベールをはじめとして、人形姫とかが出てくる。さらに創作漫研でも、この頃音楽関係でもテクノとか、ニューウェーブとかパンクとかそういう動きもあってという。

ベル　なんか変わったよね、イメージががらっとね。

米沢　ファッショナブルになる一方で、いろいろなものが出てきては、ばらばらになっていく時代。アニメもガンダムとかイデオンとか、難しくなってくみたいな流れの中にあったのかな。

そのころのコミケットは協力サークルというのがあったんだけど、これがいわゆる準構成サークル。準備会スタッフオンリーではなくて、サークルもやってるわけ。サークルやりながら手伝ってくれるていう人たち。

――コミケット１6は語る会が80年の11月22日、11月29日に直前集会っていうふうになってますね。

米沢　サークルがあんま来なかったんだよね。20～30人くらいしか。で、市民プラザを年2回にして夏に1回晴海でやろうとか、コミケットの方針を見直していこうという流れが出始めるのが80年か81年。

このあと分裂というかクーデターみたいなのが出てくるんだけれども、それと前後して、コミケットが大きくなりすぎて、同人誌が商業主義に走ってるみたいな言われ方もしはじめて……。

この頃、創作系の漫研の連中も新しいのが出てきてたし、そういう流れの中で本来の同人誌、創作系だけで、もう少し小さくこじんまりやっていこうじゃないかみたいな話も出始めて、じゃあその大コミケと小コミケをやって、定期的に、まあ2ヶ月に1回小コミケとして、年2回くらい大コミケをするのはどうだろうとか。コミケットをどうしていくかってことでいろんな方向性が語り合われた時期でもある。

結局コミケットていうのは大きくする、来る人間を全て受け入れていく、という話になる。耐えられるまで耐えようと。

一同　(笑)

米沢　そのかわりパロディもエロチックなものも、アニメもその他も全部なんでも来れる場所にしていこうと。そうすると、本来の創作同人誌とか創作マンガにとってはこれじゃいかんという話で、じゃあ小コミケをＭＧＭという形にしようかと……。

ベル　最初はまんがミニマーケットだった。色々あったのよミニマンガマーケット、プチコミケットとか漫画ギャラリーマーケットとか。

米沢　で、結局ＭＧＭで落ち着いたんだよね。

ベル　イベントのイメージって、建物でやっぱ決まっちゃうよね。

米沢　市民プラザだと、公園とかお祭りっぽい……。まあ天気が良かったから、コスプレでサバイバルゲームしたりとか、色々おこなわれた。

――で、このとき、米沢代表が来なかったという……。

米沢　あ、そうそう、結婚式で行けなかった。同じ日にあたったんだ。コミケットは年3回あるけど、そいつの結婚式は一生に1回しかないから、だから帰ると。そのことを3人くらいに伝えたんだが、うまく伝わらない。

ベル　これがクーデターのきっかけになったと言われてる。

――コミケットを語る会が当日にもあって、そこでずいぶんいろいろ議論沸騰したようですけど、ベルさんも覚えてらっしゃらない？

ベル　うん覚えてるけど、私はいないことを知ってたから、なんでこの人たちそんなにいないことを騒ぐんだとか思ってた。代表がいないのは許せないみたいなことを言ってたよね。ちゃんと説明がなかった。やっぱりみんなを集めて、「悪いけど、がんばってね、ぼくいないけど」ってやんなきゃいけなかったのよ。

米沢　集会やってなかったからね。当時は拡大集会ってのがないんですよ。1回サークル集会ってのをやって、そのときにスタッフとサークルの打ち合わせを両方やる。今は3拡（拡大集会の３回目）にその流れが残ってるね。当時はその他の打ち合わせは喫茶店で月１、2回とか。

ベル　あとは米やんの家に人が集まる。

米沢　毎日誰かいるわけ。ま、いろいろとね。

――このあたりからあのコミケット新聞っていうのが出ますよね？

米沢　これは明治高校のＳＦ研の連中がこういうのを出したいっていうんで、それは考えていたところだから君達やってくれたまえといって。市民プラザでもいっぱいになってしまったというのと、夏は会場を市民に開放する期間とかあって、会場が借りれない。それなら横浜でやろうかということで、横浜で1回やるんですけども。これがＣ19。

ベル　横浜はやっぱりねぇ。高かったってのもあるけど。

米沢　だから参加費の1300円を1400円にするとか、そういうことで悩んでた時代だから。交通費なんかもかかっちゃうし、横浜でやるとスタッフは泊まらないといけないとか。そういうこともあって、まあ、このときにどたばたすんだよね。

――市民プラザの17あたりかな。警備隊側が反則切符を作りたいと。

ベル　それを米やんが嫌がったのよね。

米沢　まあ反則切符……ペナルティ……。ごちゃごちゃ

当時いっぱいあるわけで。ただそういうので縛ったらよくないだろうと。

ベル　名札忘れてトイレにいっただけなのに通行証ないと入れませんとか、そういう記録が残ってる。多分この頃からサークルさんとのトラブルが出てきたんだよね。

米沢　昔は意外と出入自由だった。で、きっちりやりたい派ときっちりやりたくないおじさん派があって……。

スタッフ　どっかで聞いたような……。

一同　(笑)

ベル　歴史は繰り返されるのよ。

米沢　そうそうそう。あと10年たってればもしかして。

ベル　話はしてたもんね。時期が早かったよねーと。

米沢　やるにしてもそういうやり方はないだろという。自由にやりたいわけで。

米沢　同人を切るような形のコミケットじゃいかんというような話はしたんだけども……。

ベル　やっぱり切るんですか、とか言われなかった？

米沢　いやーどっちもとれないよねーとはぐらかしてる間にこう、なんか……。

――結局分裂ということになるわけですが。

米沢　簡単に言うと、別に向こうがやるぶんにはかまわないし、話合ってもいいし、別のイベントやるでもいいし、お互いに協力してやっていけばいいんじゃないかという話。

――で、8月末に発送された、元祖コミケット準備会よりのお知らせに「8月末にコミケット資料の行方不明」と。

米沢　要するにそれまでの基本資料とか、資料データを三種の神器みたいに思い込んでたから、それを隠してみたいな……。

――同じお知らせに「警備隊反省会にて」と有りますが。

米沢　それがもめた理由のひとつ。整理だったらいいんだけれども、警備員という時代ではなかったから。腕章つけて、警護をして。いまはそれが普通なんですけどね。当時は長物規制とかなんにもないから、警棒とか、軍隊の格好した人間がやってたりして……。あんまり気持ちよくないじゃん、そういうの嫌いだから。だからこの警備隊反省会ってのは準備会の一部スタッフの集会ですね。もうひとつ、警備の問題だけでなく、アニメ派の人たちに前から言われてたのが、声優を呼んでコンサートやってくれとかレコード会社とかと絡んで上映会をやってくれとか、そういう話が来てたわけ。

ベル　サイン会とかね。

米沢　そういうのはコミケットには合わないとこっちはいい続けてたわけで……。市民プラザはそういうステージとかあったからやろうと思えばできるわけだけど。

ベル　結局5年たったら元に戻る。切り捨ててきたものが、若い子から見れば全然ないわけよ。その頃はSF大会も漫画大会もマンフェスも全部なくなっちゃってるから。

米沢　声優とかアニメブームとかはいずれ治まるものだから、ブームの時にやってしまうと、拡大したものが逆に元に戻せない。コミケットはあくまで表現の場だ、という話をした記憶もあるけどね。あくまでアマチュアでやっていこうていう部分があったから。

若手スタッフ　結局彼らはどうなったんですか。

米沢　コミックスクエアというイベントになった。市民プラザはコミケでは使わないという話になって、じゃあ晴海はどうだというので冬コミが晴海に決まるわけですね。向こうは一段落してから市民プラザを使って、さっき言った声優ショーとかやって……。この頃は他にも同人誌即売会がいっぱい出来てたから、即売会だけでも人が集まるようになってきたし。アニメの人気に乗じてレコード会社と組んで別のイベントをやりたいんだったら、コミケットじゃなく自分達でやれという話を、向こうの代表にさせられた人間とはできたので。

――彼の書いたクーデター側の文書を見ても、おかしな考え方とかはしてないけど、気が弱そうで、下から色々突き上げくらって……みたいな印象はありますね。

ベル　おみこしにのっちゃったみたいな……。

若手スタッフ　どうして次は晴海ってなったんですか。

米沢　晴海は元々、会社でないと借りられないとかいろいろあったんだけど、会場に行ったら南館の上くらいの規模だったら良いという話になって。……晴海に移るんだったらやめますってのが、それまでの若いスタッフのせりふでもあったんだけど。

スタッフ　それって今のスタッフが「4日間開催になったらやめます」っていうのと同じじゃないですか！

一同　(大爆笑)

米沢　1000サークル越えたら俺はやめると宣言した人があの時半分くらいいたよね。

ベル　1万超えたらやめるってのもいっぱいいたよね。

米沢　あの時代にはそういう人もいたわけ。で、晴海に移ったらやめるってのは、そんなにでかくなったら責任とるのやだっていう感じですよね。来る人間は出来るだけ入れる方向でやっていくんだったら考えを変えなきゃしょうがないって。ただ晴海に移るきっかけになったのはクーデタかもしれない。

《P124に続く》

**晴海という大きな会場に移り、会場のキャパシティ問題はひとまず解決。
だが、大きな会場ゆえの問題も数多くあった。
急変していく状況に戸惑いながらも、
コミケットにとって不安定な時代はまだまだ続くのです。**

――晴海に来てからの話をお願いします。

米沢　そうですね。コミックマーケット自体、人が沢山来てたし混雑はしてたんだけども、わけのわからないイベントということでは一般に全然認知されてない時代、晴海の会場ってのは国際見本市会場ということで、どちらかといえば国のプロジェクトとか、大企業がやる見本市とか、そういうものしかやっていないかった時代なのね。だからバーゲンとか、即売会なんか全然ない。そういった意味ではこういうものに貸し出すのは初めてで、しかも会社ではない。海のものとも山のものともつかないわけのわからない人たちが来たっていう感じで。こっちから会場に行って話を聞いてみたら、それまでに使った会場とは違うことがいっぱいあったんですよ。1つは消防署に図面を出さなければならない、警察に警備計画を出さなければならない、それから掃除は清掃会社を入れなくてはいけないとか警備会社を雇えとか。コミケットってそういうコトをやったことがなかったのね。つまりそれまでは掃除は終わった後にほうきを持ってみんなでする、机イスもみんなで片付ける、警備員なんて当然雇わないし、消防署とかも会議室だから許可は取れてるんですよ。そんな中でやってきたので、こんな書類があるんだと。しかも会場内のどこに消火器を置くとかすごい厳しくて、お役所的な事が非常に多い。

いわゆるほんとにイベントを開く展示場でやるのは大変なんだな、というのがあった。もうひとつはそれまで1000円台の参加費…1200円とかね、それで会場費が出て、机イスも会場費にくっついてたから、収支決算出したところで、何千円赤字とか何万円黒字とかせいぜいそのレベルだよね。それが、会場費だけで南館の2階の半分で20万円かかる。それに机イスは別に借りてやらなきゃいけないってことで今までの1200円とか1300円じゃ出来ないわけ。この会場でやるには参加費を値上げするしかないんだけど、サークルが果たして参加してくれるんだろうかというのはありましたね。晴海に移る際の1番のポイントは金銭的な問題と、さっきも言った企業として契約しないといけないみたいな縛り。一応個人でも契約できたんだけど、結構厳しかった。収入源はなく参加費で全部をまかなって、収支決算出して終わらせるみたいなイベントだったからかかる費用は参加費で割るしかない。

――市民プラザから1300円になって、コミケット19、最初の晴海が1300円になってますね。

米沢　それでダメだった。

――で1500円になって、次に2000円にして、ちょっと高すぎたんで1700円になった。

米沢　こっちは川崎市民プラザのつもりで募集かけてたから……。

一同　あー……。

――実際にやってみると何万か赤字でした？

米沢　南館の２階が半分だから会場費20万。机イスを借りるのが十何万、掃除とかまだそのとき入れてなくて、入れろとしつこく言われた。スタッフの中にはマイほうきをもってる人がいて。コミケの時、ほうきをもってやってくる。

この時はね、実はシベールにポスターをたのんだけれども、吾妻さんが描いてくれた。このポスターの売上が多かった。ただこれは全くイレギュラーだったけど、この売上があったからなんとかなった。

ベル　２年に一度くらい会場費が値上がりしてたんです。

米沢　80年代ってのはバブルの時期で、物価がどんどん上がってた時期なんですよ。晴海の会場も貿易センターが２年に１回値上げ、その間の年に見本市協会が２年に１回値上げ。だから毎年値上げをやってる。80年代末くらいに自動的に２年に１回値上がりしますって告知が一度来て、その後は95年までそのまま勝手に上がっていった。あと晴海はクーラーがなかったんですよ、Ａ館Ｂ館Ｃ館と……。まだこの頃は全館使用っていうのは遠い話で、そのうち他のイベント、三越のバーゲンセールみどり会とか、世界ワインフェアーとか、フラワーフェスティバルとか、そういう細かいのが隣で開かれるようになってみんなそこに行って遊んでいた。そういうものと併設してやってて、まあこっちは邪魔になるしときどき文句も言われたりね。

若手スタッフ　コミケは人がいっぱい来ますからね。

米沢　晴海は会場の真ん中に広場みたいのがあったからなんとかなってたっていうのがあります。そんな中で会場からは普通の企業になりなさいと言われ、規模が大きくなると向こうはわけのわからない個人とは、契約できないわけですね。それで警備会社を入れるのが85年かな。その背景には84年に株式会社コミケットを作ったというのがあるんだけど、会社になってしっかりしたんだから使いなさいってやっぱり言われて。

なぜこの時会社ができたかっていうと、それまで一般参加者に向けては配置図とサークルが入ったやつをただで配ってたんだけれども、コミケが大きくなって、かなり小さい字でＡ３版の両面にしても入りきらなくなったんで、どうするかって話したときにカタログにしようって。装丁とかに金をかけないで100円でやったんだけれども、これの売上が10万か20万余っちゃう、余っちゃうっていうのもなんだけど、経費を払ってしまうとお金が残っちゃう。

さらに規模が大きくなってページ数が増えても、売るときの手間とかで半端な値段がつけられないんですよ。それできりのいいところで、じゃあ200円と。200円にするならカラーにしちゃえ。200円にした段階で、100円のときは5万か10万しか黒字にならなかったのが、200円にしたら結構黒字になって。

しかもこれが8000とか1万部近く売れるから、売上が200万で、印刷原価引いても何十万か残っちゃう。そうすると税金の申告がまずいだろう、どうするかって話になって、これは会社にして申告するしかないと。あともうひとつはコミケットへの問い合わせが非常に多かったんだけど、電話で問い合わせを受けられる場所が無かったんですよ。その頃は一般からの問い合わせも含めて全部個人で受けてた。しかもアパートの共用電話だから非常に問題が多い。これはいかんということでじゃあ会社にしてそういう窓口を設けようと。ただ窓口を設けるにしてもただ電話番をしてももったいないじゃないか。ということで本でも集めて古本でも売るかと古本屋を始めた。古本屋で店番が座ってみんなから集めた本を売って、一方でそういった問い合わせを受けるのがコミケットサービスのはじまり。

若手スタッフ　最初の頃はどうしてたんですか？

米沢　細かい仕事は個人の家でやって、ちょっと大きめの作業は青少年会館とか区民会館を借りて、15人くらい集まってみんなでやる。手紙の発送なんかも10人くらいでぱーっと3～4時間でやる。あと日々のやつは手紙とかためとく。1000、2000だったからね。だからできたっていう。

コミケットサービスが出来て、見本誌を置く為の倉庫も貸りた。それまでずっとうちに置いていたんですけども、さすがに入りきらなくなったので、つぶれた中華料理屋とかアパートの1間とか借りて、そこに置いてたのが80年代の前半。会社にして古本屋の営業とカタログの出版で、しばらくやっていこうと。それによって初めて契約書が会社対会社で交わせるようになったんだけど、逆に会社になったんだから警備会社入れろ、掃除会社とかちゃんと雇えという話になって、それが晴海の初期ですね。

84年末くらいから女の子が急に増え始めて、85年夏には既に西館と新館1階に別れてる、新館1階が男でロリコン系、西館の方にアニメ系ですね。で、さらにはっきりと東館がキャプ翼の女の子、西館にそれ以外と別れるのが85年の末。この頃は、ちょうどバブルが始まってて、イベント会場が強気になっていた時期でもある。ひきがいっぱいあるから貸せない、特に春は１館しか借りられない。その頃はもう２館ないと開催できないから、１館だったら空いてるんですけどねといわれても、なかなかできないという話になったのが84年。

――コミケット29で男女が分かれるっていう形になったていうのもありますよね。準備会の方も再編というかたちで、一般参加で来た人達がひきこまれる。

米沢　みんなで机イスを並べてみんなで片付けてたね。その辺にいる若い連中に手伝ってよとか言うと、みんな良い人たちだから手伝ってくれて、いや、楽しかったですよと。そんな感じで30～40人くらいの人達がそれぞれ2、3人連れてくれば80人になる。大学生とか、どこそこ高校の漫研とか、どこそこ大学付属高校とか…色々なグループが連れてこられるのが83～84年ですね。ロリコン系で同人誌にひっかかった人も多い。準備会スタッフも増えていく。

――ＴＲＣの時には今の入口担当にあたる整理入口ができてますよね。

米沢　正式に、スタッフにお願いするよとやりはじめたのはＴＲＣから晴海に戻った間ですね。

で、晴海の貿易センターが東西になって、西の新館１、２階の形でやって、キャプ翼のブームが86年の夏あたり。カタログも８千とか１万とか刷って、いつも売り切れてたんだけど、会社にしたのを契機にみんなに十分いきわたるだけ刷るかと３万部刷った。そしたら山のように売れ残ったんです。完全購入制でもなかったし、売れ残って

１万部くらい捨てたか持って帰らせたと思う……。この頃はまだ書店販売はないし、当日どうやって売っていたかというと、販売員が手に持って売ってた。会場内の受付販売で売ってる以外は、外で並んでる一般参加者に手売り。そのうちカタログが重くなって、もうできない、という話になって受販だけに。

晴海での開催は定着してたんだけども、さっき言ったようにバブルがはじまりかけてて、なかなか会場のスケジュールを空けてくれない、こっちは次回予告が間に合うように会場予約をしたいのに、突然３月はどうですかとか、何月はいかがですかとか、夏できなくなりましたとか言ってくるんですよ。でもうちは立場弱くて、隙間として入れられてた時代だから。

しかもそういうイベントがコミケ以外ないんですよ。この頃はシティもまだ始まってないし、ミニコミフェアは晴海ではやってなかった。

――さらに、フジテレビのイベントで夏休みの１ヶ月晴海を借りてたり。

米沢　そう、で、夏休みはこちらに貸せないと、この頃のコミケットは学生がメインだったから､夏休み冬休み春休みの流れは変えたくない。しかし7月中旬から8月いっぱいそのイベントが開かれている。そういうこともあって会場を移るしかなくて、この頃TRCで東京文芸がミニコミフェアというイベントをやってたんで、ここに色々教えてもらって。それでＴＲＣに移ることに決めたんですが、狭くてサークルが入らない。じゃあどうするかという話をして、晴海でも東西に分けて、半々ぐらいは入るんだったら、２日に分けるという方法はどうかということで、ここで初めて2日開催になる。

ベル　帰ってきたらまた１日に戻るよと言いながら……。

米沢　だからその夢工場(フジテレビのイベント)で夏が出来なくなった関係もあって、ＴＲＣで２日間。この前年くらいから女の子のキャプ翼、男の子の美少女とはっきり分かれてきたんで、女の子の日と男の子の日を分ければいいんじゃないかと。この時は２日間で4400サークル、1回目は落選を出さなくて済んだんですよ。1日で2400入れられるという図面でやってたんで、もうちょっと入れられるだろうって。ところがＴＲＣ時代もサークルはどんどん増えていくわけで、お断りするサークルが２回目、３回目と増えてくる。

晴海もその実は、１ホールで1000サークル入るとしますよね。２ホール借りて2000だけど、2300サークルのために３ホールは借りられない、そうすると300サークル切るしかないけど切りたくない。そういう中で苦肉の策でやったのがコミケット30のラピュタブース(味の素)。この時には新館２階の半分までサークルを入れて、残りの半分を何とか埋めよう、で、企業を誘致したらどうかという話が出た。企業になんとかしてもらえばサークル入れてもなんとかなる。会場費の面積分プラスαくらい出してくれれば、いうことで考えるわけですね。実はそれ以前にも企業とコミケの流れっていうのがあって、最初にカタログに広告入れたのがコミケット21で、少年ジャンプのとき。インタビュー側が堀井雄二氏だった。当時、ジャンプにコミケを売り渡したと批判があったけど、そうじゃなくて、ジャンプは記事を書き協力費の変わりに広告を出しただけ。

またこの頃印刷所が少しずつ増えてきて、宅配搬入とかもこの辺から始まるんですよ。ペリカン便をちょっと入れてみたりとか。この頃宅配便の出始めで、まだクロネコとペリカンくらいしかなくて、ペリカンは日通から参入したばっかり、新しい会社でフットワークってのがあるからと紹介されて、はじめたのがひとつと、印刷所もそれまでは、まあ10社あったかなという感じのだったのが、キャプ翼時代になって急激に印刷所が開拓されていくんですよ。

こういう企業を相手にきちんと対応していかないと本も出来ないし、同人誌をやってる人たちが多いってあちこちで記事になり始めた時期なのもあって。そのなかで文具とか、トーンとかをコミケットで売れないかって最初にお話が来たのがＩＣトーン。

――ＴＲＣだと、ＥＦホールっていう２階建てのホールの奥に荷捌き用のくぼみがあって、そこにサークルは置けない、というのは確かにありましたね。

米沢　ＥＦホールの裏側のところを更衣室にしちゃえとか、この凹み使えないから企業を入れたらどうかとか、会場の形に合わせていろんな物を考えたんですよね。その中でトーン会社がこの頃から少しずつ出始める。印刷、宅配、更衣室、そういうものを少しずつ入れ始めるってのがTRC前後ですね。

晴海の前からやりはじめて来た事がTRCで形になったということかな。それまでは２館といってもね、いったりきたり出来たのが、あれだけ細かくなるともうできなくなっちゃうんで、ここで館長っていうのを置いたんですよ。ここの館はまかせるからっていう形でやり始めた。

――この頃はカタログに堂々と載っていましたね。道に並べと。

米沢　そんなもんですね。まあ列が出来るといってもね、入場待ちだからそれほど伸びてない。ＴＲＣに移って何が問題だったかっていうと外周と、この頃星矢のブームで女の子達の列がたくさん出来るってのがあって、それをＡ～Ｄホールの横のスロープに入れてた。ここに並ばせてサークルに行かせるみたいな形でやったんだけれども、その一方でＥホールＦホールにはエロがあって。混雑対応的なものが出始めるって言うのはこの辺からかな。会場の形に合わせて計画を立てて、当日やっていく中で作られていったというか、そういった意味じゃ結構会場に沿っていろんなセクションができていったのかなっていう感じがしますね。

――自分は晴海時代からの設営混対スタッフでしたけど、設営に呼ばれて、朝会場に行って机を並べて、開場後は適当に本を買ってたんだけれど、だんだん混雑がひどくなって、これじゃどうしようもないと、自分も本を買えないし、とりあえずみんなで並ぼうよと。そうするといつのまにか反省会にも出て、ぽんと肩をたたかれるという。

米沢　そうやってみんなずるずると引き込まれてくのね。ゲートでも徹夜組の連中とかがもうちょっと早く列を並ばせろよとか言って、じゃあお前やれって。おーやってやろうじゃねーか。よしよしと。徹夜組から来た、並んでた連中が来たみたいな。あとはサークルから来た人とか、準備会にいろんな役割のスタッフが入って来たのが第１期晴海の終わりからＴＲＣにかけてですね。

事務集会は青少年会館を使って、この辺は女の子スタッフメインで事務とかやってたんだけど、もうひとつ大く変わったのはさっき言ったようにコミケットサービス以外に、事務所を一応開設しなくてはというのが大きいわけね。最初は事務所といってもコミケットのことを毎日やってる場所ではないわけですよ。で、出版を考えて、コミケットセレクション、コミケット年鑑というのをやり始めた。一応カタログもそこでやって会社のほうの事業で申告しようという話になったんだけど、それだと年２回だから、今と違って１週間とか10日で出来ちゃうんですよ。当時はマンガ情報誌が出始めてたけれども、まだコミックのアンソロジーとかない時代だった。ただそれをコミケットがやるとなると、売れ線とか商業誌で作ることに対するひっかかりがある。売れる作家さん集めれば売れるよね、でもやっちゃいけないよね、っていうので中途半端になっちゃってたのね。だから会社ではコミケットセレクションていう形で、同人誌のままだと残らない作品をまとめていく出版事業を考えてた。その中で編集者育ててとか、いろいろ計画があったわけ。年鑑セレクションという編集部をスタッフに声かけてやりたい連中にやってもらったりとか、そうした意味ではコミケットが1番動いてた時期ですね。その頃に筆谷がカタログの編集長になって。

――コミケット26からですね。

米沢　26からか。これはセレクションの方の編集長が楽だから弟子のお前がやれと押し付けて。セレクションは作家に依頼したり原稿もらったりしないといけなくて、結構大変だから。コミケット25、6かな。

――えっと奥付に名前が出てるのがコミケット26ですね。

米沢　それに関してもまだまだお遊びでやってた時期だったのかな。まあ企業としても、イベントをやる以外にそういう形でやっていこうという試みだったから、個人の力量とか、事務的な部分でやるにはちょっと厳しい、だから年間でもセレクションで1、2冊みたいな感じかな。キャプ翼の作家さん達をメインに時は結構刷って3000くらい。あ、これはもしかしたら商業的にやっていけるかもしれないと。でもコミケット以外に販路がないし、当時はカタログも一部の専門書店しか売ってない。高岡書店とまんがの森ぐらい。書店売りが始まるのが最初の戻り晴海からで、その頃カタログが２～３万部で落ち着きましたね。

そんな感じで今のコミケと準備会の原形みたいなものが、必要に応じて出てきたっていうのがＴＲＣ時代。さっきも話した、会場に対しての人出の多さっていうのが警備会社でも警察からも問題になって、最後のＴＲＣにおいては、道路の列を無くすために、ＴＲＣの立体駐車場を借りて一般参加者を並べるという計画に……。

ベル　最初はダメって言われたんだけど、でもその時はさすがにしょうがないってことで。

米沢　一応警察からも列ができるんだったら、待機できる場所が必要ですねって指導があって。それで使う事に。一般参加者は立体駐車場の中を上がって上まで行って、また下まで降りてくるというね。そうすることによって参加者を貯められるし、会場も参加者を吸いこんでるから、あまり列が増えない。この時は全部入り終わるまでお昼までかかったのかな。

で、88年に１回目の戻り晴海。２日間になったし、人はどんどん増えてたし、ほぼ１万サークルで、参加者は６～７万人くらい、１日当たり３万５千人くらいになるんだけれども、もう大変な状態ですよね、晴海の２館に３万人とか４万人つめこむというと。一般を並べるために駐車場を借りるとか。徹夜組のためにＣ館借りるとか、ホールの奥に印刷物を一時搬入させたりとか。

――この時期晴海ってのがかなり不規則な開催ですよね。

米沢　88年は８月だけで、この年は冬コミができなかった。

――だからコミケット34の申込書では会場が確保できないため、３月下旬または８月どっちかの日付になりますと。

ベル　あれはすごい賭けでしたよ。会場側がなかなか答えだしてくれなかったんですよ。

――サークルは開催日程がわからないまま参加費4000円を送ってるわけですが。

ベル　いや、すごいなーとか思いましたよ。

米沢　みんなよく信用してくれるなと。この頃は1万サークルくらいだから4000万くらいあったんだよね。

ベル　みんなびっくりしたもんね、えーって感じで。

米沢　これは頑張らなければと。

ベル　スタッフにその話をしたら、それだったら頑張らなくちゃとやっぱりみんなが思って。

米沢　３月が取れたのは12月か１月になってから。

ベル　結構ぎりぎりだったよね。毎日毎日会場に電話して。

米沢　このころ不規則だったのは、晴海が稼働率7割～8割になってて。そうすると弱小のどうでもいいものは後回しにされる。

ベル　やはりね、他のイベントは開催前後に搬入搬出があるから５日間くらい通しで借りてるんですよ。

米沢　今だったら逆に土日の方が空いてるのにね。平日じゃないと企業が来てくれないから。その頃は一番経済が伸びてた時期で。うちなんかと違って他のイベントは規模が１億２億とかね。会場にはうちは産業見本市であり国際的な会場だとしつこく言われた。コミケットはそういう国際的な会場においては、若者とか子供が集まるという、低俗なイメージを持たれてましたね。実際に晴海の会場の人たちも、ちょうど高度経済成長時代に、企業と付き合ってきた人たちで、モーターショーとか鉄鋼見本市とか、いわゆる国の経済の発展に貢献してきたという自負がある訳ですね。まあこの後時代が変わるんだけど。

ベル　でもちょっと言っておきたいのはね、その中でも私達に理解を示してくれる人たちがいたんですよ、ちゃんと。その人たちがコミケットのために尽力してくださった部分があって、他の人に説明してくれたり、いや若い人たちがこれから伸びるんだよとか、そういうのをちゃんと言ってくれてたみたいなのね。

米沢　86年から88年、非常に不安定な時期なんだよね。

ベル　私達もそれで毎回毎回疲れた部分もあったよね。なんでここまで言われなきゃいけないんだろうと。

米沢　言われるままに警備入れて、言われるままに清掃会社入れて、あと看板出しなさいよとか言われて。当時はみんな手で書いてたんだけど、他の展示会みたいに看板つけてちゃんとやりなさいと。いくらかかるんですかと聞いてみると、看板ひとつが10何万とか、この施工やると50万とか。こっちはそんなこと考えもつかない。白い紙を1枚100円で買ってきて、マジックで書いて貼ってた感覚の人たちが、突然施工業者に50万払って看板作るなんて、考えられないわけで。

ベル　でもなんとかなったのが、机イスを借りてる便利社さん、ここがなんでも屋さんなんです。それでなにかあったら便利社さんを頼ってきた。あとスタッフの関係者に葬儀屋さんがいて、立て看の文字を書く仕事をしてたの。で、どうしたかっていうと捨て看を夜中に拾いに行くわけですよ。あちこちにおちてる不法捨て看。これを町の浄化のためですとか言って集めてくるわけ、20本とか。それを貼りなおして書き直して。手作りイベントですからそれでいいんですけどね。

ベル　なんかだんだん大人になってゆく、というわけじゃないけれども、遊び感覚で使ってたものが社会的なもので縛られたりとか。でも実際中身は変わんないじゃないですか。会社になったんだからとか契約がどうたらこうたらとか。スタッフにはそんなこと言わない、言えない部分がありますよね。

米沢　メッセに移る前の晴海のとき、夏コミに、いわゆる宮崎事件があった。逆にここから激動の時代が。不安定な時代が終わったら今度は激動の時代が始まったのです。

《P154に続く》

時代はバブルの絶頂期。
再び会場問題に直面したコミケットは、新天地を求めて幕張へと移動。
同人マーケットが急激に拡大する中、
コミケットでも様々な試みがなされていました。

米沢　晴海の会場が、既にコミケット37の冬がだめで、コミケット38の夏にもまた１ヶ月イベントが入ってるって言われてたんですね。これはもう後がないということで、C37の冬は幕張でやる事に。幕張は12月１日に正式オープン。コミケの前にモーターショーがあったけど、この時はプレオープンで、完全に完成してない状態だった。

ベル　大きなイベントとしてはうちが初めてでしたよね。まだ幕張は認知度も低かったから。

米沢　こっちも初めての会場だったので、事前にスタッフを連れてバスで会場に見学に行っていた。

ベル　みんなで遠足に行ったようなものですよ。ビデオを撮って。

米沢　89年の6月ぐらいかな？　ここはこーなるあーなるって。電車も京葉線１本でまだ東京駅につながってなかった。他にはバスくらいしかなくて。

ベル　ホテルも何もできてなくて。

米沢　この電車が来るたびに何千人降りてくる、それをここに並べたら、並べ終わる頃に次が来る、これで並べ終えたら何万人まで対応できるとか色々な計画を立てて、うちあわせをしたんですよ、入口担当メインでね。なんかそういうので、この頃は参加者の誘導が主な課題になってる。あと駐車場から入ってくる人たちの導線も含めて外と中をどう繋ぐかとか、外と中がはっきり分かれた会場でもあったので、それをどうしようかと。２階の通路のところに列を作ろうとか、この列はここの踊り場にためようとか……そんな感じで計画をたてていって、１番端の１ホールを借りて一般参加者を並べると。ここは半額で借りたの。施工してないからってなんとか半額にしてもらった。人並べるだけですから。単に人をためておくだけだったら良いですよ、と。それで４ホールプラス１ホールでやった。１番最初の時には隣で恐竜博をやってたんだけど、揉めましたね。コミケットの列がジャマで客が来ないっていわれて……。

この頃はもうひとつ、救護室を作れっていう話がありましたね。救護室はその前の晴海の時も小さい部屋で作ってて。あと更衣室っていうのも正式にはなくて、新館の奥のシャッターを閉めてやってたんだけど、幕張ではどっかに作ろうかと。

ベル　幕張は個室がたくさんあったからね。

米沢　主催者事務室みたいなのも作ろうと。あともうひとつホールの奥のところに自販機とか入ってる商談スペースがあって、なんか座れる様になってるんだけど、ここもサークルは入れられないよねという話になって、じゃあ企業を入れようと。要するに会場の形にあわせて計画を立てていくの。あと、人気サークルの列をどうするかって時に、幕張にはモールっていわれてる場所があるんだけど。

ベル　屍のモール。安らぎのモール。

米沢　この辺からサークルの列をこうしよう、みたいな混雑対策を立てるようになった。あと幕張では５ホール使用のときに一般参加者待機がホール内になった。

――前日搬入はその場所をめいっぱい使って荷さばきして、サークルに荷物を配ったら、当日は一般待機場所にして、昼になるとなくなるという。

米沢　一般を並べて、どんどん入れてってまたここに並べる。さらに列を並べる、足りなくなったらこの辺の外がわに並べる。そんな感じでやってたっていうのが幕張。

――このやり方は幕張と晴海でしかやってないですから。

米沢　幕張でやってたのをそのまま後の晴海にもって来てる。もうひとつ、幕張に行った時に、それまで晴海っていうのは館ごとの管理だったんだけど、幕張はホールが繋がってるから、全体でそれを動かさなきゃいけないっていうのが基本にあった。ブロック担当とか、それぞれの役割をセクションではっきりさせたのが幕張なんですよ。また会場に出す書類とかでも体制表が必要になってきた時期だから、それにも対応しないといけないという流れの中で、ブロック担当、あるいは混雑対応、入口担当というセクションで組織化していった。

当日の体制はそういう形で進んでいったんですけど、この時期、８月にあった宮崎事件が結構尾を引くわけで、同人誌とかロリコンマンガとかオタクっていう言葉が、だーっと一般化していく。そういったものがメディアからバッシングを受ける一方、まだ一般の人は知らないという状況もあった。一般の人はオタクという言葉も知らなければ、コミケットに宮崎が参加していたとか、バッシングされているものとコミケットが同じジャンルにあるとも考えない。幕張時代、うちは客種がいいと警察に言われてるのね。客種がいいっていうのはどういう事か聞くと、来る人たちが言う事を聞いてくれるし、トラブルを起こさない、整然と並んでる。１番良いのはコミケットさんです、２番目にいいのが宗教関係ですって。

――コミケット37は一般参加者が12万、38が23万という記録になってるんですね。倍増っていうのはちょっとすごいですよね、これはどの辺りに要因があると？

米沢　ひとつは37が冬コミであること。この次が夏コミであること。で、もうひとつはジャンル的にトルーパーの盛り上がりが最高潮になったから。このときは12万くらいだろうと、12万人ですね、って警察に言ってたわけ。そしたらなんか向こうに言わせると20何万人、１日当たり10万人は来てるみたいなことを言われて、これ訂正しろみたいな話もあって。そうですかね、とか言って、23万人にした。要するに人の数も正確にはわかんないから、大体のところであれぐらいのところにこれぐらい人がいたら２万人、３万人くらいだよね、という警察から聞いた数字を減らしたりして適当にやってたわけ。そうしたら千葉の警察が23万人、１日あたり12万人だみたいなことを言ってきた。電車から降りてくる人間がこれだけいるからと言われると、あーそうですねみたいな。でも確かに冬から夏で増えた。

あと宮崎事件によって、こういうものがあるという事を知った男の連中が増えてるんですよ。この87年くらいにはペンギンクラブとかキャンディータイムとかね、中綴じの美少女コミック誌なんかが色々出てたんだけど、そういう傾向のものがコミケにあると、宮崎事件や色々な報道の中で知られて、それで男が増えてる。

トルーパーやキャプ翼、星矢、シュラトとかジャンルがごちゃごちゃとあって、女の子はもういっぱいいる。そこに男の子連中がそうやって増える。ちょうどその頃、ヤングジャンプとかあの辺で「みんなあげちゃう」とか、ちょっとエロチックなマンガが85～6年くらいから人気が出始めて、「少年キャプテン」とかのオタク系マンガ雑誌の作家達が同人誌を出したりとかもあったしね。

そして、大手サークルがまた人を寄せるのね。その辺に関しては今言った男の子がくる以上に、この頃は女の子達が拡大した。トルーパーとか翼とかのアンソロジーがいっぱい出る。88～89年にかけてふゅーじょんプロダクトとか青磁ビブロスとかそのへんが出て、ばーっと拡大していくんですよ。その読者の子たちも来るようになる。さらに、この頃コミックシティが全国展開を始めた時期でもあるんだけど、そういう地方で育った人たちがコミケにやってくるようになった。サークルも含めて、同人バブルっていうのが幕張あたりから急激に動き始めた時期だったと。

――そういう拡大の中で事務の電算化も重要だったわけですが。

ベル　もうコンピューター化してるよね、この頃。

米沢　85年くらいからコンピューター化しようという話が出るんだけれども、実際に始めるのは86年、ＴＲＣからかな、正式なのは。ただ打ち込みとかなんとか、作業やるのに時間がかかる。全部入れて、容量も足りないからどうすんだって話で。まだ早いんじゃないのコンピューター導入はとか話をしたりしてた時に、私がやります、と言ったのは岩田君なんだけど、やっぱりやらされる人間がいたわけで。で、毎日申込書の内容を打ち込んで。

ベル　そうだね、日々の作業。

米沢　申込書だけで１万通近いでしょ、日々打ち込むのが１ヶ月くらいかかる。２万越した時に業者に投げるようになって、そんな感じですよね。ちょうどその頃ハードウェアとか含めて全体的にパソコンが進化したし、その申し込み代が経費として少し使えるように

なる。まだカタログの部数も伸びてたしね。

そんな感じで、幕張の形に合わせて体勢が整い始めた時に猥褻事件が起きた。

エロ本はね、実はＴＲＣのときにも警察に持ち込んだ人間がいるんですよ。警察から最初に話が来たのはＴＲＣ。そのときは長い行列のせいで問題になって行ったときに、髪の長い男が、コミケで売られていたとエロ本かかえて持って来たと言われた。だからこの時からじゃないかとこっちは思ってるんだけど。中でも特にグロいやつ、そんなものうちでは売られてませんよとか、向こうもそれほど厳しい時代じゃないからこういうものがあったら注意しますという事で済んだんだけど。千葉の時にはちょうど青少年条例が動き始めた時期で、そんな中で、千葉県警にこんなもの落ちてたんですけど、と、エロ本30冊入った袋を持ってきたやつがいると。それがあったのと、まんがの森、高岡など売られてた同人誌が捕まった。流通を通っていない「猥褻」本みたいな見方で。

80年代半ばには裏本とかビニール本とかいう言葉があった。そういうものとしてマンガが取り扱われたきっかけは色々あるんだけれども。朝日新聞に「こんなかわいい女の子が載ってるマンガを買ってあげたら中がエロ本だった」という投書が載った。で、最近のマンガが貧しすぎるという社説が朝日新聞に載ったんですよ。この辺とフェミニズム関係の性の商品化はどうのこうのという主張がからまったうえで、ポルノコミックに対する風当たりが結構厳しくなった。そういう流れが89年にあった。そういう背景があったからこそバブルだったのかもしれないけれども、あともうひとつはさっき言ったヤングジャンプとか、スピリッツなんかの青年誌のエロマンガが激しくなってきて、それが一番売れてた。弓月光とか、遊人が人気があってどんどんエスカレートして行った。しかもそれまでのエロマンガとは違うわけですよ。エロ劇画とかおっさんが見る物とは違う、かわいい少女マンガとかアニメ系の絵で描かれたエロマンガを知らなかった人たちが驚いた。そんな中、ビニ本関係を手入れしたら同人誌が出てきたのが90年の1月かな。これが書店の摘発とか事件になるわけです。この記事が出たあとに、こんなものが売られたといって千葉の警察に持ち込まれたのね。

ベル　千葉は厳しいですよね。しかも怖かったですよ。米やんと２人で呼び出されて会場に行ったら、ずらっとお偉いさんとかが、がーっと並んでて、ちょっと今回は会場は貸せないということをいきなり言われて。

米沢　うちはもう次回を告知しているし、申込受付も済んでいる、そういうのに関してどう処理して行くとか、そういうものがこれだけの規模のものだから損害は数億ですよねとか。でも、それは言いませんから、かわりに晴海に紹介してくださいと。責任を持って下さいと話をした。

ベル　あの時はこれはもうだめだと思ったよね。何言ってもこの人たちは通じないと。だったら今から晴海に一緒に行きましょうと。営業担当に電話してもらって。

米沢　で、晴海に電話してもらって。晴海に行った上で、やっぱり晴海でも開けないと。晴海の人も始めはかなりうるさかったんだけれども、色んな約束をすることで、何とか開かせてもらった。約束の内容は猥褻、つまり法律に触れるものは売らないことと、あとこっちで見本誌チェックを行うこと。そこで緊急アピールをサークルに出して、晴海への移転と、まあ簡単に言えばこういう形でしかコミケは開けないからサークルもこういうお約束をして欲しいと。

幕張の時代、準備会のメインはゲートだった。その他は混対で話をしておけば後はなんとかできた。でも今度はこの問題が出てきたおかげで、ブロック担当のチェックを１番厳しくしなくちゃならない。そこでの打ち合わせが１番大きかった。どうやって赤紙を貼るとか、その基準はどうするかとか、どうやってチェックするのかとか、その形を整えてからが、２回目の戻り晴海です。サークルのみんなが言うところの戻り晴海ってこの戻り晴海なんですよね。

ベル　その時からブロ担が増えた。

米沢　それまで１つのブロックに１人おいておけば良かったのを、チェック数が１島～２島に１人は最低必要だろうという事になって、ちょっと人数とか増やした。

で、ここで幕張から戻るわけですよね。事件が起きたのが２月。晴海に移ることが決定したのが３月。緊急アピールが出されたのがいつだったっけ、４月くらいかなぁ。

このときにはそのサークルにはこういうお約束、うちはこうやります、ていうのだけじゃなくて印刷所も集めてやったし。

――91年の６月ですね、印刷所のは。

米沢　３月末ぐらいに晴海と話してますから、向こうから駄目だといわれたのが３月末。３月の末くらいにそれやって、４月に拡大じゃないけど似たようなのやって、印刷所は６月くらい。

この戻り晴海では東館、西館、新館1、2階、南1、2階、Ａ館、Ｂ館を使用した。Ｃ館は徹夜組を並べた。この前の89年の時は、西館と新館１、２階で２日間開催で済んでたのに、コミックマーケットは幕張に行っている間に、これだけ増えて、いつのまにか全館使用２日間になっていたという。わずか２年の間に。

ベル　サークル数は１万１千、1000しか増えてないのにどうしてだろうね？

米沢　なぜかというと、混雑サークルの列を並べていたモールがない晴海でどうやるかという時に、Ａ館体制というのが実施されることになって。Ａ館に印刷所と一部の混雑サークルを入れる形でやるわけです。搬入も夜中の２時くらいから立ち上げるというコトで、当日最初にスタッフ業務が立ち上がるのが搬入部だったんで、こっちは本部を夜中の０時～１時に出て、搬入部に挨拶して帰るのが日課だった。この晴海とかその辺で、そういう形で、全館使用でやらざるをえなくなって、サークル参加費をあげざるをえなかったかな。

若手スタッフ　１館で40サークルですか……。

米沢　Ａ館体制はやむにやまれずやったけど、ヒエラルキーができちゃうし、コミケらしくない。それで２年ほどで止めるんです。

――参加費はメッセから5000円になって、コミケット42までは5000円でやってます。

米沢　あ、違うわ。ここで会場費自体の値上がりと、クーラー代が付き始めるんだ。実はそのもうひとつその前にシステム的に大きな変更があったのは、幕張の２回目かな、申込書に値段をつけ始めるんです。それまで実際の印刷代に近い１冊300円くらいでやってたんだけど、申し込みがどんどん増えていって、とにかく落とさなくちゃいけない。それは何故かというと受かるためには沢山申込書買って申し込めばいいわけで。その対策をどうしようという話をスタッフから受けたときに、じゃあ申込書を1000円にしたらどうだろうと。

若手スタッフ　実際効果があったんですか？

米沢　ありました。すぐ元に戻るんだけれども、少なくとも一時的な歯止めにはなったし、申込書の捌け方の問題も解消された。つまり３万通申し込みが来るときには６万通も７万通も申込書が持っていかれちゃうんだけど、それがなくなった。あと、申し込みが沢山来ちゃっても入るスペースは決まってるから事務作業で落とさなくちゃいけない。申し込みの手間暇、事務処理の手間暇、事務にかかる経費、そういうものがどんどん増えていく、しかもお断りとかする手紙とか出さなくてはいけないから、これをどうするかといったら、全部事務の部分であるんだったら、申し込みが増えた部分の費用で処理できるかたちにせざるをえない、という話もあって、1000円ということになった。抽選漏れも含めて全申込者へのアピール送付などもこの頃から。

「猥褻」問題については、その間別に警察からのお咎めもなく、問題もないってことで、この後２年くらいで落ち着くのかな。91年はそれでピリピリしてたんだけど、92年の夏くらいには……。ただ91年はさっきいったような青年雑誌からもSEXを扱ったマンガはほとんど消えて、単行本もどこも出さない、ていうのはありましたね。92年の夏くらいからそれはまた元に戻っていくんだけど。

《Ｐ184に続く》

**あわただしくも、三度晴海に戻って来たコミケット。
コミケットが巨大化していく一方、「場」を守るために、
準備会の体制も変更を余儀なくされる。
要求に流されるまま形を変えていくことになるのだが――。**

米沢　それから晴海の時代が始まるわけなんだけど、この間に準備会としては、幕張ではブロック担当という形で会場内全体を指示していた体制を、また館ごとに分けることになるんだけど、館ごとのシステムと全体のシステムの流れのずれが問題になってきて。混対もばらさないといけないし、新たに階段担当も立ち上がるし、ゲートはゲートで、サークルゲートと一般ゲート、それから徹夜組のＣ館と、それから駐車場で分かれるし。そうした意味ではいっぺん作り上げた体制をわずか３年で壊して、その体制の中にいた人間たちを使って再度組み直さないといけないという、結構大変な時期でしたね。

　あと、晴海で新館を使うにあたって、エスカレーターじゃダメだから階段を使う事になって。この階段が非常に危険だから、導線をどうするかっていう話になって、階段っていうセクションが15人くらいでできる。それから場外販売が出来たのもこの頃ですね。

　――それまで晴海でやった時は公共通路の部分が混雑でどうしようもなくなることはまずなかった。

米沢　晴海に戻ってきて、Ａ館ができて、中央通路をバーッと一般がバッファローように走る。それから更衣室もいっぺん作って利用者も増えちゃったから、南館の２階を空けて部屋を用意しないと対応できなくなった。マニュアルの年表で利用した館をみると、南館は１階しか書いててないけど、南館2階も更衣室で使ってた。Ｃ館にも徹夜組がいたし。あの年表には、サークルが置かれている館しか書いて無いんですよ。

若手スタッフ　実際は全部借りて利用しているけど、ということですね。

米沢　これはあとでどういう風に書きなおしたほうかいいかとも考えてるんですけども、全館使用の中でサークルはここに置かれていたということですね。

　それでこの時から５年間晴海でやるんだけど、一応この間は滞りなく毎年夏と冬に開催できた。幕張が出来て、晴海の会場も空きができたから日程が押さえやすくなってきたのね。この間に女の子たちはサイバーフォーミュラを経て、遊白、スラムダンク、ガンダムＷが主流で、エヴァも最後に来るのかな。トルーパーはまだ残ってて、あと炎の蜃気楼くらい。

　そしてこの時代にエロ本の大手ができていくわけで。セーラームーンが92年。セーラームーンの時代がやってくるんですが、これは結局、男の子たちが、ずばりのエロが描けなくなってソフトエロ路線をめざすわけだけど、その傾向にセーラームーンって作品がぴったりはまったわけね。ソフトエロだったら女の子も入って来れる。男性系の人も入っていく、そこで男女の混合が行われていく。女性向でも幽白とスラダンでいうと、スラダンは劇画っぽいＪＵＮＥ、幽白はショタコンからやおいというか。その中間にセラムンがあって、ハードな連中はまた別で。この頃いわゆる変態物が増えるんですよ。ふたなりとか、男のショタ、それから巨乳系とかＳＭ系とかそういうエロ系のフェティッシュに分かれて行く。

　こういう形であればオッケーというお墨付きを半分もらったみたいに、ジャンルごとにそれぞれ特化されている。単にバービーショットを描くわけにいかないとなると、物語とか話を描かなくちゃいけない。セーラームーンも女の子がレズ的なモノが多くなって、Ｈが軟派ラブコメくらいになっちゃうんだよね。あとそういうふうにジャンルが分解していくと同時に、以前バブルの時期に女の子のサークルに鍛えられた印刷所がいろんな技術を持ち込んできて、男の子のサークルもこの頃から本が派手になってきた。その前もにもカラーの表紙があることはあったけど、大手だけだったよね。カラーだけで値段100円とかあがっちゃうからね。それがこの頃は技術革新もあって、カラーが意外と安くできるようになった。セラムン時代はエロという男の子のジャンルに女の子が入ってきたせいもあって、本として作りの良いエロ本がではじめた。

――同人誌も色々グッズが出始めた頃ですよね。

米沢　女の子たちがグッズを出したり、いろんなことが試されたてた。大手になるとどんなものでも作れる。この時代は制約が色々あった中では派手にできた幸せな５年間だったのかな。ただバブルが残ってるから、さっき言ったように２年ごとに会場費が上がっていった。そんななかで、この時期の晴海では一般参加者の問題がいっぱいでてきて、まず近隣住民からの苦情とか。TRCの時代も徹夜はいたけど、そんなに問題になるほどではなかった。いたかもしんないけどこちらからは見えなかった。ところが晴海に来たら、公園で煮炊きをするとか、夜中にあちこちで騒いでる。この公園っていうのが近隣住民の多い場所なんですよ。朝、拡声機使ってると文句が出るし、参加者の車がいっぱい来ると渋滞でバスにのれないとか。大体朝９時か10時まで苦情を受け付けるのが総本部。で、そういうのを隔離しようというので一般参加者を奥のほうに並べたり、Ｃ館の中に徹夜組を並べたりしはじめた時期、その中でゲートのやり方とか、並べた場所と導線の関係とか、この頃からカタログってのがある程度分厚くなってきたけれども、これをある程度売らないと全体経費が出なくなっちゃった。つまり参加費ではイベントが出来なくなりはじめた。

――この頃は確か、カタログは半ば強制的に買ってくださいって。

米沢　完全購入制ではなかった。だけど持ってない人はこっちでどうぞって。他のとこは完全購入制で見せて入れってやってたけど、うちは規模的にそこまで対応できないから、見せて通るだけで、おちとかぬけとかあってもいいから、できるだけ買ってもらうにしようと。こんな分厚いのが余っちゃうと大変だからねって。

　なんにしてもそういう形でやったなかで、できるだけ列を長くするためにとか色々やってたのよ。一度、そんな中で一般をＣ館通して入れるってやった時に、全部入り終わったのが、２時半くらいになった回があるんですよ。それまで準備会は10時開場16時閉会と言ってるのに、いい加減だった。10時半に開場にしたこともある。例えば晴海がチェックが始まった頃はチェックが延びて少し遅れてる。その分どうするかというと後ろを延ばすんですよ。今回は16時半までやりましょうと、意外といいかげんで、だから今日の開場は何時ですか、何時に終わるんですかと聞きに来る。見てまだみんな帰ってないからじゃあ30分くらい伸ばすかとか、まだいい加減に決めてた。戻り晴海の時期は。で、その時は14時半か15時まで入場が終わらなかった。

――それはいつですか？

米沢　93年か94年。

ベル　ゲートから泣きが入ったんだよね。そりゃ入るよね。一般の人がかわいそうですとか言われた。

米沢　この時に開場時間をのばすっていう話が出た。

　もうひとつは94年の夏コミ、記録的な猛暑でジェノサイドコミケットとかいわれた。このときは300人くらい救護室に運ばれた。

――ほんとにジェノサイドですね。

米沢　で、それ以外にもいっぱいバタバタ倒れて。なぜかと言うと、新館２階で熱がこもっちゃって。

ベル　館内が40度くらいになっちゃた。

米沢　あと駐車場も人を並べるのに使うようになって、駐車場は広いし、コンクリートで下から反射熱があるから、かなり暑くなる。人数が戻ってきて増えてる、ということがあって、飲み物の供給も追いつかない。

米沢　そのときは結構氷屋とかジュース屋とかいれてたんだけどね。

ベル　今と違って全然ね飲み物がね足りなかった。あとトイレがないからガマンしちゃったり。

米沢　救護室は常時300人くらい寝てたね。ほとんどマグロ状態で、事務所の１階２階まで使って寝かしてた。

ベル　会議棟みたいなのちっちゃいのができてたんだけど、スタッフ休憩室まで使う勢いで人があふれ

ちゃって。

米沢　その時からゴザとか毛布、夏は氷を用意しろってことになった。外回りのスタッフにも体調管理のために塩と氷砂糖が配られるようになる。

米沢　スタッフの飲み物を、それまで１日２本に限定してたんですよ。スタッフ用の昼飯は準備会で用意してお茶もつけて。それで足りない人は自分で買って飲めといってたんだけど、この時の猛暑があって、熱中病の防止のためにも、スタッフにもうちょっと飲ませるようにしようといって、でも経費はかけられないから、ジュース屋さんに、手数料はスタッフの飲み物でくれと。それで最終的に調整した数の分だけ代金を払う。

ベル　私がその方法を提案したんですよ。めんどくさいからスタッフ分はそっちお願いしますって。足りない分は出しますからその分どんどん入れてくださいと。

米沢　スタッフに水分とらせようとしてね。そのやり方だとスタッフが毎日５本飲んでもなんとかなる。そういう形でやってかないと、スタッフにかけるお金が増えると、サークルの参加費に負担がかかるから、それもできないし。

――Ｃ40のときにスタッフが約650人、それがＣ48では1600人に。

米沢　腕章作るにしても、１個350円でそれが400個とかかかる。

ベル　それだけ人間が来ると、スタッフ集会も大変になってくるんですよ。

米沢　区民会館でやってたのが、区民会館でできなくなる。区民会館だと5万10万で済むんだけれども、そうじゃないところかりると会場費が……。

ベル　100万単位ですよ。

米沢　今だと、ビッグサイトでやると200万。会議棟で、会議室に各部署の小部屋も借りて、スタッフ集めてお話するだけで１回200万かかってしまう。

　その辺は上手くやり方を考えながら、何とかしていった時代が晴海かな。逆に大きなトラブルもなかったし、嵐がすぎていった時期といえる。

　その後、92年くらいに同人誌の海賊版が出始めてる、91～92年くらいにどこそこのサークルの本がビニ本でコンビニで売られていたとかあって。この海賊版の話がサークルの中で問題になるのが93年位かな。相手に電話して抗議しても、お前達も非合法な本出してんだろみたいに言われてひっこんじゃう。

ベル　だって相手はやくざでしょ？　結局なにも解決ついてない。

米沢　結局、儲からないから出なくなって終わったんだけども、また最近あちこちで出始めてるね。

若手スタッフ　最近はインターネットでそういうのやってますからね。

米沢　こういう流れの中で準備会という組織を作っていったのが晴海の時代だったのかなっていう気がしますね。記録的な猛暑ってのがあって、救護室の充実と、外救護っていう形で搬送したり運んだりするのを作らなくちゃいけないということで、それを手配したり、このころやっぱり階段とか、事故がないように誘導すると言う形でやっていくってことで。

ベル　晴海に戻って新しい部署ができると思わなかったよね。

米沢　だからこのころ、参加者からカタログが分厚いって言う声があったから。いくつか色々やってみるわけですよね。注意書きと五十音順だけ別にして１冊とか、１日目とか２日目とか分けたりとかいろいろやってみるんだけれども、どれも評判悪い、値段は余計高くなるし、なんか手間かかるし、文句は言われるし。それだったらまた電話帳と言われても一冊に戻しちゃおうと。

　大きい問題はなかったし、さっきいったように幽遊白書とかエヴァとかガンダムＷとか新しいのが出始めて、この辺すこし変わり始めてエロゲーも出始めてたのかな。それが晴海の時代。

《Ｐ218に続く》

**慣れ親しんだ晴海会場から、新天地の有明へ。
新会場に合わせ、またしても体制の変更を求められる準備会。
コミケットが巨大化の一途をたどる中で、
有明の時代は限界との戦いでもあったのです──。**

米沢　晴海の会場がなくなるってのは、93年くらいから聞いてました。会場側から、コミケットもそのままビッグサイトに移動してくださいとお願いされてて、どういう体制になるかも全然わかんないけど、移動後のことを考えて94～95年くらいから計画を立ててはいた。

　それで96年だったっけ。ビッグサイトでは実はオープニングイベントで都市博というのが長期間あることがわかった。有明は都市博で幕を開けて、それを1年間やって、その間晴海も平行して１年間は営業するって話で。それなら96年の間は晴海の会場を使わせていただいて、都市博が終わってから有明に移ろうという話で進んでたんだけど、この頃、会場の話がばたばたと変わっていって。都市博が中止になっちゃたのね。そうすると晴海も96年の夏までは営業してるという話だったのが、突然95年の12月で終わる、いや96年の３月で終わると。次々と話がでてきて、どれが本当でどうなるかさっぱりわからない、何にしてもどっちかでやりますからということで計画を立てはじめるんだけれども、その後で晴海は95の年12月いっぱいで終わるという話になって。話を聞いたのは95年の６月頃だけど、その時点では12月31日で閉めるって事だった。それじゃうちが晴海最後のイベントになるかなと。そこでみんなで晴海壊していいよ、どうせ壊れるからと冗談を言ったりしてね。参加者全員で１カケラずつ壊して帰れば、晴海もあっという間になくなっちゃうかもしれない、それいいんじゃないとかいう話をしてたら、急に晴海が３月まで営業を延長する事になってしまった。冬コミのあとも３月まで晴海があるという話を聞いて、晴海もなくなるし、コミケットもちょうど20周年だし、じゃあスペシャルでもやるかという話が出て、それが95年の６月くらいですね。スペシャル２のほうは10年以上の参加サークルと、今までの協力サークルやカタログなんかに原稿を描いてくれたりしたサークルも合わせて招待して、東館で1500スペースくらいでやりました。

ベル　このスペシャルでは前夜祭もやったよね。サークルとスタッフで晴海のホテル浦島を借りてパーティーを。

米沢　そうそう。会場に近い浦島でやるから、サークルも来ていいよと声かけて。こっちの参加者も1200人くらいいたかな。

ベル　結構来たよね。一応いつもと違う格好でお願いしますとか書いてみたら、みんな結構ドレスコードを守ってくれたんですよ。

米沢　酔っ払って次の日大変だった人とかいたけれど、まあこんな祭も久しぶりでそれなりに面白かったのかな。前夜祭で挨拶したり、歌をうたったり、ゲームやった上で、当日に流れ込むっていう。当日はアトラクションとか、ビデオ上映とか企画もいろいろやって、いつものコミケットと違って面白かった。一般参加が何人来るか全く読めなかったので、往復ハガキでの事前登録制にしたけれど、本当はもうちょっと人を入れてもよかったのかもしれない。

　それで、このスペシャル２を終わらせてからビッグサイトに移るんだけれども、この会場っていうのは、会場側の体制も変わってるのと同時に、ビッグサイトという建物自体についてまだ誰もよく判っていないという状態なんですよ。ここでまた準備会の体制を全部変えることになるのね。これまでは館と言う形でやってたのをまた戻さないといけない。体制変更をやるわけなんだけれども、有明での１回目っていうのは、都市博のイベントの一部がまだ残ってて、１ホールか２ホール使って長期間やってたので、コミケットだけで全館借りられない状態だった。もうひとつ、有明全館をいくつかの地区、東123、東456、西みたいな形でエリアを分けて使わなくちゃいけなくなった。西の上は使う必要がなかったんだけど、使うとしたらどう使えるのかとかそういう事も考えて。前にも、会場によってコミケは変わると言ったんだけれども、使えないところもあるわけね。西の４階も最初は使わないという方針でやってたんだけれども、西の４階だけ借りないで会場を空けておくと、他のイベントが入ってきて対応が面倒だとか、公共スペースが自由に使えないとかいろいろあって、じゃあ西の上も使いましょうという方向で進めた結果、企業スペースが出来て、更衣室をここに置くって話も出てきて……。

　セクションも会場に合わせて分けると人の使い方も変わっていく。スタッフではブロック担当が足りないっていって話になってて、それでブロ担と混対と合体して、館内担当という部署を作って、当日の朝はブロック担当の仕事をやらせて、昼は混対をやってもらったと……。つまりごまかしちゃったんだけどね、本当は。あと入口担当のほうも一般を全部北駐車場に移してというようなことを言ってたけど、交通の問題があるからそれはできないと。バスとＴＷＲ（現在のりんかい線）をわけて人を溜める必要があるから。

　その中で一番問題になったのが公共スペースの使い方。当時のスタッフはみんなわからなかったみたいだけど、この会場では公共の部分をどうつなぐかが一番問題になると思ったんで、晴海時代の階段担当のスタッフに無理やりお願いして、公共地区担当という部署を立ち上げた。

ベル　それも最初はね、名前をスカ担にしようかと。エスカレーター担当で略してスカ担。でもそれはちょっと嫌だと。

米沢　いろんな部署から人をひきぬいて新しい部署を作って、計画を立てて……これも大変でした。ここではこういう問題が起きるだろうとか、予測とそれに対しての計画をたてるのがこっちの仕事で、会場に慣れて落ち着くまで４年くらいかかった。それが落ち着いてくると、システムが変わるたびにギクシャクしていく。つまり駐車場がなくなるとか、りんかい線が通るとか、何か１つ変わるたびに対応も変えなくちゃいけないから、そうやって変身してきたっていうのがビッグサイト以降のシステムですよね。

　あと、有明にきてからは他のトピックスやクロニクルのページでも取り上げてたりするんですけれども、コミケットに対する妨害みたいな動き、脅迫状や爆発物をしかけるとか、「いっちゃった人」とか、いろいろな人が出て、警戒体制をとらざるをえなくなった。警察とか消防とか会場と連動しなくちゃいけなくなって、結構ピリピリしました。純粋に楽しめない部分っていうのが出てきて、大変だったなぁっていうのがありましたよね。

　それともうひとつ、ビッグサイトの後にバブルが崩壊して全体的に不況になっていった。本当はコミケットも切り詰めなければならないのに、そういった警備的要因から安全係数をとらなければいけなくなる。車両だって1000台入るところに余裕をもって800台しか用意しないって話になるわけで、ほんとはその200台分を活かすために営業するとか、キチキチでやったほうがいいんだけど。でも、だんだんこっちもそういう細かいとこまで見えなくなって来るんで、その条件でＯＫするんだけれども、そういう意味ではコミケットも贅沢になりつつありますよね。

　例えばコミケットは他のイベントに比べたら会場の通路幅が広い。そうした意味では他のイベン

トだったらもっと多くのスペースを詰められるわけです。他のイベントは通常朝から机イスを並べるけど、うちは設営日として半日借りてるわけ。やっぱりそうした意味でコミケットは費用がかかりすぎてる。警備員の数もどんどん増やせと言われるし。それでサークルの参加費が上がってしまうのが一時悩みだったんだけれども、それでもしょうがないかってね。図体もでかくなったわけだし、もう手作りでできないイベントになっちゃったかなあ。コストパフォーマンスはどんどん悪くなってるこれが30年目を向かえようとしているコミケットの今日この頃です。

準備会スタッフ関連だとね、ビッグサイトになったら急に展開する場所増えたからスタッフを増やしたいと各セクションから要請があって、そのときスタッフ募集をアピールとカタログに載せたのかな。これがビッグサイトに行って１回目くらい。

晴海から移ってきたときは1000人居たかいないかくらいだったのがすぐ1600人になっちゃったて聞いた。そのあと2000人を越すのもあっという間だった。何割増しであってさ、何百人という意味合いじゃないんだよ。

ベル　やっぱり友達を引っ張ってくればね、100人が200人になっちゃうわけ。

米沢　それは、コミケがどうしてここまで大きくなったって言うのと同じで。

ベル　一緒なんだよね。

米沢　1000サークルの時は１割増えても1100にしかならない、でも１万サークルだと1000増える。そういうかたちで。

ベル　毎回ちょっとずつくらい増えてるよね。

若手スタッフ　毎回の上昇率はそんなにパーセンテージ上がってないと思います……。

米沢　ビッグサイトで開くイベントとしてはこの３～４年くらいがそろそろ限界かな、と思ってます。１ヶ所に人が集まるイベント、という意味合いにおいては限界だと感じはじめている。

若手スタッフ　一時期、１週間全部コミケとかいってる人がいた。

――３日が４日になるんじゃないかという話が。

米沢　それはスタッフが許してくれないし、代表の体力にも限界がありますので……。もはや理念の前に現実がきてしまっているという状況かもしれませんね。

――今回のスペシャル４は、その限界に挑戦するという意味もあるんですよね？

米沢　まだまだやれること、試せることはいっぱいあるはずなんです。キャパシティの問題もあって、容量的に限界としても、その中身、可能性には限界はないはずですから。でもね、コミケットが表現の目標や理想を掲げてはいけないと思っています。それこそ、自ら限界を設けてしまうことだからです。参加している人が、もっといろんなことができる環境の整備、新たな刺激を受けられる出会いの機会を増やすといったこともできるはずだと思います。

――よく昔は世界征服とか言っていましたが？

米沢　まあ、冗談ですけどね。ただ、コミケットが発信したものが、世界に届きはじめていることは事実で、海外でも日本のマンガ・アニメ・ゲームが浸透し、コアなファンたちの間ではコミケットの名も知られているようです。一方で、ネットの中で、ネットイデオロギーのようなものも自然発生していているようですし、国家や個人の利害を超えたところで、趣味や文化、表現を通じて、世界がつながりあえるなら、もっと世界は幸せになるかもしれません。これまた、妄想とか冗談のように聞こえるけど、個を尊重し、人の多様性を認めるというのがコミケットの基本ならば、それは一種の平和運動とも言えるかもしれません。「24時間、オタクは地球を救う」。標語にすると、恥ずかしいですけどね。